

スリットランプ 3Dライブセミナー (網膜硝子体編)

日時

平成28年 11月4日 17:40～18:40

会場

第14会場 (グランドプリンスホテル京都 1F ロイヤルルーム)

座長

飯田 知弘先生 (東京女子医大)



細隙灯顕微鏡は「眼科医の聴診器」とも言える眼科診療の最も基本となる検査機器です。網膜硝子体疾患の診断では、前部硝子体の観察と、前置レンズを用いた黄斑部や硝子体、眼底周辺部の詳細な観察が重要です。OCTをはじめとした画像診断装置が著しく進歩してきましたが、眼科医自らの眼で“みる”ことの重要性は全く変わっていません。

研修医時代の“見る”から“診る”に至るには、もちろん訓練が必要ですが、そのためにも基本に沿ってポイントを押さえたスリットランプの操作手技を習得しておくことが不可欠です。そして、その手技はレーザー治療にも応用できます。

ハーグストレイト社のゴールドマンスリットランプBQV900は、光暴露量が少なく済むLED光源と、両眼視野を約3倍に拡げられるステレオバリエータを搭載した、網膜硝子体を観察するのに最適なスリットランプです。ステレオバリエータを入れると眼底像が平坦化しますが、広い範囲を立体視できる利点があるかに上回ります。特に硝子体の観察や、小瞳孔での周辺部眼底の観察がとてもしやすくなります。

今回、3Dシステムをスリットランプに応用して網膜硝子体を「立体的」に観察する3Dライブセミナーを企画致しました。網膜硝子体観察のポイントをライブで紹介しながら、処理や細工無しの「3D」映像をご覧頂く予定です。

「百聞は一見に如かず」、スリットランプの基本手技を解説しながら3D画像を体感していただく本セミナーへ是非お越し下さい。

演者

丸子 一朗先生 (東京女子医大)

